## c . 河口付替工事

久慈川河口付近の河道は、かつては海岸に発達する砂州に押さえられて、ほぼ直角に折れ曲がり、砂州沿いに1.6km北上してからまた東に折れ海に注いでいた。

このため、洪水時には流水の疎通は著しく阻害され、河口付近一帯は出水ごとに冠水し、その被害は上流の常陸大宮市(旧大宮町) 那珂市(旧瓜連町、那珂町) 常陸太田市(旧金砂郷町)にまで及んでいた。

この被害を軽減するため、明治以前から砂州の一部を洪水時に開削して、水位の低下をはかる方法がとられてきた。

付替工事は、昭和39年度から具体的に技術的検討を始め、昭和44年度から着手し、昭和49年度に一部通水し、昭和50年度付替を完了した。

また、左岸導流堤については、茨城県において施工し、昭和53年度に一連の河口付替工事を 完了した。図 3-7に工事による河道の変化を示す。この河道の付け替えによって陸地となった 旧河道の中心地に、久慈浜の人々によって「普流・戦」大が、」の碑が平成11年に建立された。



河口付近(日立市·東海村)

(平成15年11月撮影)

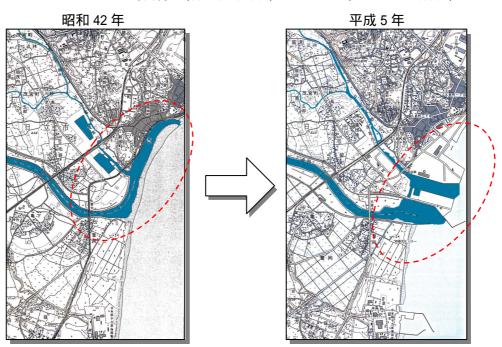


図 3-7 河口付近の河道の変遷

## 「昔流甦大地(せきりゅうだいちによみがえる)」の碑

久慈川の河口は昭和 44 年から 51 年までのショートカット工事で直進して太平洋に注ぐようになり、かつて 1.6km にわたって北上して旧河口に注いでいた流れは消滅した。この碑は久慈浜の人たちが中心になって「昔の流れを忘れないために」平成 11 年に建立した。急角度に曲がる旧河道のために度重なる洪水に苦悶していた日立市留町などの人たちと、利害が対立した旧河口の久慈浜の人々との長い確執を物語っている。



「昔流甦大地」の碑(日立市)



かつての久慈川河口(昭和 40 年撮影) (小林弘、「ふるさと(じはま」より)

(手前右が久慈浜の漁港、左手に巨大な砂州の向渚が延びている)

## (2)治水の現状

直轄管理区間の山付き等の堤防不要区間を除く計画堤防延長は、本支川の左右岸合わせて85.1kmであり、平成15年度末における堤防の整備状況は完成堤防が66.4kmであり、その整備状況を表3-4に示す。

			•	•
	河川名	直轄管理区間延長	堤防延長 (km)	
		( km )	計画堤防延長	完成堤防延長
	久慈川	27.6	48.7	36.9
	山田川	10.5	18.6	17.7
	里川	9.7	17.8	11.8
	≐∔	<i>1</i> 7 0	9F 1	66.4

表 3-4 久慈川の堤防整備状況(平成16年3月現在)